

溶かす

伝統の鉄作り・たたら



三日三晩続いた不眠不休の作業も、いよいよ終りを迎えようとしていた。数時間前まで高く炎を上げていた炉も、送風を止められ、今は静かにそのときを待っている。大きなかぎのついた棒を持った男たちが、炉を取り囲み、崩しはじめた。灰と土ぼこりが舞い上がるなか、真っ赤に焼けた「鋳」が姿を現し、緊張していた空気が急にやわらぐ。いつのまにか空も白みはじめ、男たちは、高殿の一角に設けられた神棚に感謝の祈りをささげた。

